

Weekly Michael's News

2016年6月21日発行 No.5

<今週の聖句>

「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。」 (ペトロの手紙Ⅰ 第4章10節)

<学びを志す学生と共に「ヒロシマ」を知り、命を考え、平和を作り出す歩みが始まった!!>

この夏休みに、KIUキリスト教センターでは、特別なプログラムを企画しています。その名もズバリ「ヒロシマ平和旅考」です!! ←「考」の字は漢字変換ミスではありませんよ!! 世界で初めて戦争で核が使用されたヒロシマ（これも敢えてカタカナで記載しています）の地に立ち、命の大切さを考え、そして平和を作り出していくために自分は何ができるかを考える2泊3日のプログラムです。つい先日もオバマ大統領が現職大統領として初めて広島を訪れ、大きなニュースになっていました。それを受けてか、学生に参加を呼び掛けると、定員を上回る希望者が与えられ、スタッフとしても驚きと喜びを感じつつ、準備をしています!! テロや紛争によって多くの血が流され、また貧困や格差によって様々な問題が叫ばれている時代に生きる私たち。でも、そのような中だからこそ、命の価値を学べるチャンスを大切にしたいですね!!



説明会には意欲的な学生の姿が!!

<新メンバー急増の中、聖歌隊の集中練習が続く!! 天使の歌声のデビューを聞き逃すな!?!>

火曜日のお昼から午後にかけて、チャペルには美しい歌声が響きました。なぜかというところ最近勢いを増してきている聖歌隊、その集中練習が行われているからです!! 今年の4月に行われた入学式でも「アメージンググレイス」を披露した聖歌隊でしたが、あの時に比べてメンバーが増加し（特に男子学生が増加!!）ハーモニーが美しくなり、また声域も格段にグレードアップしてきています。メンバーを優しく、また専門的に指導&リードしている、我らがKIUオルガニストの伊藤純子先生にインタビューすると、「一番の聴き所は、2番以降のオルガン演奏がなくなる所で、キレイにハモった時は、鳥肌が立つ程です。」と嬉しそうに語って下さいました。

ここで特に紹介したいのが6月28日に行われる音楽礼拝で、歌声を初披露する事が決まっています!! 一緒にご飯を食べたり、楽しそうに談笑しているメンバーがどんな歌声を響かせるのでしょうか!? ぜひ皆様28日のお昼はチャペルまで聴きにきて下さい!!



美しいハーモニーが生まれ始めた!!



優しく練習をリードする伊藤先生

6月13日(月) 前田 次郎(八代学院 理事長) テーマ:「自分の賜物に気付く」

英国の修道院にいつも失敗ばかりしている見習いの男がいた。周りからも苦情が出て、ついに修道院を出て行く事になったが、その前夜彼は礼拝堂のイエス像の前で、一本のロープを渡る驚くべき技を披露した。彼はそこから交通の守護聖人アンデレとして有名になっている。人にはそれぞれ違った形で神からの賜物が与えられている。何でも1番になろうとするのではなく、与えられた自分だけの賜物を大切にしながら、その集団の中で「君がいなければ困る」と言われるような生き方を目指したい。

6月14日(火) 荒木 智子(リハビリテーション学部) テーマ:「育つ、育てる」

先日、娘が体調を崩し、急遽予定の変更を強いられる事になった。回復した娘がくれた手紙には「ママに迷惑をかけてごめんね、ママもお仕事がんばってね。」と書かれており、改めて余裕がなかった自分を実感した。別の日に実習中の学生を訪問すると、教え子が理学療法士として活躍しており、頼もしさを感じると共に「育てる」という事の本質を考えさせられた。「育てる」事は、自分が「育つ」事にもつながる。人を育てると同時に、自分も育てられている存在である事を忘れずにいたい。

6月15日(水) 仲 久則(経済学部) テーマ:「迷惑メール」

今年度、私のメールアドレスには509通の迷惑メールが届いた。以前は全て英文だったが、最近は日本語のものも増えてきて、迷惑メールか否かを判断しにくくなってきた。特に気を付けたいのが標的型攻撃とランサムウェアだ。ウイルスに感染すると、PC内の情報が漏えいしたり、データが勝手に暗号化され開けなくなって身代金(ランサム)を要求される等の被害が発生する。現状では特に有効な対策はなく、安全かどうかを迷う時は一人で判断しない事が重要である。どれだけ便利になっても道具を使うのは人。メールやPCにまつわる環境を今一度見直したい。

6月16日(木) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「畏れ、敬い、感謝する」

私は、前任校でラグビー部の顧問をしており、週末に農業高校と合同練習をした。グラウンド脇のトイレに入ると一枚の紙が貼ってあり「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」という言葉が書かれていた。「稲が実を熟すほど穂が垂れ下がるように、人間も学問や徳が深まるにつれ謙虚になる。」という意味だ。今日の聖句やKIUの建学の精神にも「神を畏れ、人に仕える」生き方の必要性が叫ばれている。浪費ではなく節約を、自己中心ではなくつながりや絆を、そして与えられた自然や命に感謝しながら、謙虚に生きる姿勢を大切にしたい。

6月17日(金) 中矢 英俊(経済学部) テーマ:「オランダにて」

私は15年間、オランダのホテル・オークラで勤務したことがある。オランダは九州ほどの国土で人口は1680万人。ニューヨークを最初に開発したのはオランダで、ブルックリンやハーレムなどはオランダの町から由来している。国民の多くがオランダ語以外に英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語などを話し、外国人にも地方自治参政権が与えられており、国際性が豊かだ。安楽死やLGBTへの市民権を認め、ドラッグの無料支給を行うなど、非常に新進的である。

(文責:野間 光顕)